

教育プログラム・コースの概要

大学名等	慶應義塾大学大学院医学研究科						
教育プログラム・コース名	外科系臨床腫瘍医養成コース（正規課程）						
対象職種・分野	医学研究科大学院生						
修業年限（期間）	4年						
養成すべき人材像	本養成コースは、がん診療を専門化した医師を養成するプログラムであり、がん患者に対し高度な医療を提供することができる以下の人材像が求められる。 1. 理論的知識に基づいた判断力を持つ医師：がん診療に必要な理論的知識を深く理解し、患者の状態に合わせて適切な治療法を選択する能力を持つ人材。 2. 手術手技や技術を熟練させた医師：がん治療に必要な手術手技や技術を習得し、患者の状態に応じた適正な手術や治療を実施する能力を持つ人材。 3. チーム医療に貢献できる医師：がん診療には多職種の専門家が関わるため、チーム医療において協力的に行動する能力を持つ人材。						
修了要件・履修方法	医療科学系専攻の主科目21単位以上に加え、以下の【履修科目等】に記載のすべての科目を副科目として履修し、単位を修得すること。履修内容審査および学位審査に合格すること。						
履修科目等	医療科学系専攻の主科目21単位以上に加え、以下のすべての科目を副科目として履修し、単位を修得すること。履修内容審査および学位審査に合格すること。 <医療科学系専攻主科目> 生命倫理学(1単位)、臨床疫学または基礎疫学(2単位)、医学統計学または基礎生物統計学Ⅰ・Ⅱ(2単位)、所属分野科目(特論・演習・実習)(計16単位) <副科目> 基礎腫瘍学(2単位)、先端ゲノム医学(1単位)、緩和医療学(2単位)、臨床腫瘍学(2単位)、化学療法学(2単位)、臨床研究方法論(1単位)						
がんに関する専門資格との連携	外科専門医（日本外科学会）、消化器外科専門医（日本消化器外科学会）、乳腺専門医（日本乳癌学会）、産婦人科専門医（日本産婦人科学会）、がん治療認定医（日本がん治療認定医機構）の研修施設として認定。						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	1年時には、がん診療の基盤的知識及び幅広いがん治療に関する講義を実施する。講義はそれぞれの領域で活躍している医師によって最新の情報を交えて行われる。2年時には、がん診療には多職種連携が必要不可欠であるため、がんに関連する複数の診療科において薬物療法、放射線療法、緩和医療、外科的治療、リハビリテーションなど複数の専門家と連携して臨床研修を実施する。3年時には、がん専門施設（国立がん研究センター、がん研有明病院など）などで実際の臨床現場での実習、症例検討やカンファレンスなどの充実したカリキュラムが用意されている。4年時には、チーフレジデントとしてがん診療の診察・診断・治療に関わり、がん患者の治療計画をチームリーダーとして立案・実施する修練を受け、手術手技や技術を研鑽するとともに、がん治療認定医や外科系領域のサブスペ専門医の取得を目標とする。また、4年間かけて基礎研究・臨床研究・トランスレーショナルリサーチに従事し、アカデミック外科系医師を育成する。						
指導体制	指導教授：北川 雄光（医学部外科学教室（一般・消化器）教授） 担当教官：山上 亘（医学部産婦人科学教室 教授）						
修了者の進路・キャリアパス	外科系臨床腫瘍医は、がん治療の分野で高い専門性を持っているため、幅広いキャリアパスがある。 ・専門医取得後、大学病院やがん専門病院、総合病院などの臨床現場で手術を含めたがん診療を行う一方、教育・研究活動にたずさわることができる。 ・海外へ留学することで、国際的な視野を広げ、最新の治療法や研究成果を学ぶことができる。						
受入開始時期	令和6年4月						
受入目標人数 ※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
	0	4	4	4	4	4	20
受入目標人数設定の考え方・根拠	20の関連がん拠点・連携拠点・連携協力病院に専門医を最低1人ずつ配置することを目標に、今後5年間で20人養成する。過去の志願者数と入学ニーズ調査から毎年4人の志願者が見込まれるため、受入れ目標人数を4人と設定。						